

日本遺産認定 10 周年記念シンポジウム

南加賀の凝灰岩切石積石室と古墳文化 ～河田山古墳群の謎を追う～

2026 年

11月14日(土)

9:40～ 小松市民センター小ホール

参加無料
要申込
定員 100 名



河田山12号墳

令和8年(2026)は、日本遺産『珠玉と歩む物語』小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～が認定を受けてから10周年となります。そのストーリーを構成する重要な要素の1つに、今も続いている凝灰岩石材の切り出し利用があげられますが、その源流は飛鳥時代の切石積石室にまでさかのぼります。

本年は、河田山古墳群の発掘調査が行われてから40年の節目でもあります。当シンポジウムでは、河田山古墳群の凝灰岩切石積石室に焦点を当て、古墳時代が終焉を迎える中、精巧な凝灰岩切石積石室がどうして小松の地に築かれたのか、日本列島、そして朝鮮半島の様相から考えます。

◆調査報告

9:50～10:40

小松市埋蔵文化財センター 調査担当

◆基調講演

10:50～11:50

山本 孝文 (日本大学文理学部教授)

日韓の横穴式石室と切石技術
～「石を積む」から「石を組む」へ～

◆基調報告

12:50～14:50

- 【関東】草野 潤平 (山形県埋蔵文化財センター)
- 【飛鳥】西光 慎治 (明日香村教育委員会)
- 【北陸】伊藤 雅文 (石川考古学研究会)

◆パネルディスカッション 15:00～16:40

- ・コーディネーター：山本 孝文
- ・パネリスト：基調報告者・調査担当

申し込み【申込受付開始は10月3日から】

・小松市埋蔵文化財センター

☎ 0761-47-5713

・こまつ電子申請サービス

電子申請 応募フォームはこちら QRコード↑から



関連企画

小松市立 加賀国府ものがたり館

小松・能美2市連携企画展

南加賀の後・終末期古墳と 凝灰岩切石積石室

2026 年 9/19～12/6

- 開館時間 9:30～16:30 (入館16:00まで)
- 休館日 祝日を除く水曜日・祝日の翌平日
- 観覧料 無料

